

ソニー教育財団 2019年度 教育助成論文 募集開始

創業者 井深大が始めた60年間続く教育現場への支援

小・中学校、幼稚園・保育所・認定こども園に助成金と教育教材を贈呈

ソニー教育財団（会長：盛田昌夫）は、全国の小学校・中学校、幼稚園・保育所・認定こども園から「教育・保育の実践と今後の計画」をまとめた論文を募集します。次世代を担う子どもたちのために、より良い教育・保育の実践に取り組む学校・園に、助成金と教育教材（ソニー製品）を贈呈します。

ソニー創業者の井深大は、日本の発展のためには子どもたちの理科教育が重要であると考え、1959年に「ソニー小学校理科教育振興資金」の贈呈をはじめました。今年度、ソニーが教育支援活動を始めてから60周年を迎えます。本論文には、累計で13,200を超える学校・園からご応募いただきました。昨年度も318校・園から論文応募があり、172校・園が入賞されています。

今年度は、8月1日（木）より小・中学校を対象とした教育実践論文の募集を開始します。また、8月9日（金）より幼稚園・保育所・認定こども園を対象とした教育・保育実践論文の募集を開始します。

子どもたちの「なぜ?」「どうして?」を大切に、「感性」と「創造性」を育むことに情熱を持って取り組む学校・園の皆さまからの多数のご応募をお待ちしております。



ソニー創業者 井深大

今年度より最優秀園と優秀園の助成金が増額となり、新たな賞として優良園が設けられました。

「教育・保育実践論文」 募集概要

◎ 小学校・中学校 対象（ソニー子ども科学教育プログラム）

主題： 「科学が好きな子どもを育てる」

審査委員長：御手洗康 元文部科学事務次官

募集期間： 2019年8月1日（木）～9月3日（火）当日消印有効

助成内容： 最優秀校 300万円、優秀校 50万円、奨励校 10万円の教育助成金と教育教材

入選発表： 2019年12月中旬に当財団のホームページで発表

応募方法： <http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/science.html>

◎ 幼稚園・保育所・認定こども園 対象（ソニー幼児教育支援プログラム）

主題： 「科学する心を育てる」～豊かな感性と創造性の芽生えを育む～

審査委員長：小泉英明 （株）日立製作所 名誉フェロー

募集期間： 2019年8月9日（金）～9月9日（月）当日消印有効

助成内容： 最優秀園 200万円、優秀園 30万円、優良園 10万円、奨励園 5万円の教育助成金と教育教材

入選発表： 2019年12月中旬に当財団のホームページで発表

応募方法： <http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/preschool.html>

<報道関係の問い合わせ先>

公益財団法人 ソニー教育財団 東京都品川区北品川 4-2-1
TEL:03-3442-1005 FAX:03-3442-1035 （担当 山下）

<参考資料> 昨年度の実績

■ 2018年度 ソニー子ども科学教育プログラム 最優秀2校 (応募総数 172校)

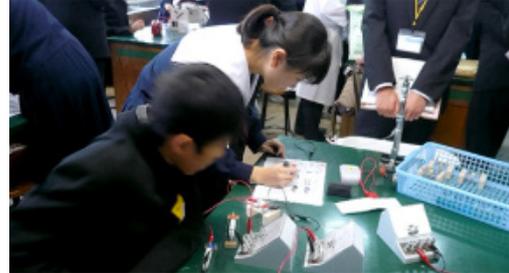
鹿児島大学教育学部附属小学校 / 鹿児島県

テーマ：鹿児島島の自然に親しみ、
学びの価値を実感する鹿大附小プラン 2019



岐阜市立陽南中学校 / 岐阜県

テーマ：自然の事物・現象に進んで関わり、
自己の学びをつなぐ生徒の育成



■ 2018年度 ソニー幼児教育支援プログラム 最優秀2園 (応募総数 146園)

学校法人山梨学院 山梨学院幼稚園 / 山梨県

テーマ：お米づくりから広がる子どもたちの世界



奈良市立鶴舞こども園 / 奈良県

テーマ：創造的なひらめきから「いい」をかたち
づくる 「いい」こと考えたー
きっと「いい」はずー「いい」とはこれだ



■ 2018年度 入選論文

ホームページでご覧いただけます。

<http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/result/2018.html>

■ 2018年度 贈呈式の様子

2019年1月19日(土)に、ソニー本社(東京都)にて贈呈式を開催しました。

最優秀および優秀校・園の校長先生・園長先生、論文の研究代表の先生および保護者の代表をお迎えし、ソニー教育財団会長の盛田昌夫より、表彰状と目録をお渡ししました。当日は、文部科学省を含むご来賓の皆さまにもお越しいただき、受賞された先生方に直接お祝いのお言葉をいただきました。



■ソニー創業者 井深大と教育助成について

ソニーの創業者である井深大は、戦後間もない日本において、科学技術の振興こそが国の発展に繋がると考え、次世代を担う子どもたちへの理科教育に多大な関心を抱いていました。日本初のトランジスタラジオを発売し、会社経営が軌道に乗り始めたのを機に、1959年に「ソニー小学校理科教育振興資金」の贈呈を始めました。ソニーの教育支援活動の始まりです。

この事業を継続的に発展させるため、1972年に「財団法人 ソニー教育振興財団」を設立しました。その後、井深大の理念を引き継いだ教育助成活動は対象を中学校にも広げ、子どもたちの感性・創造性・主体性の育成を目指した「ソニー子ども科学教育プログラム」へと発展。60年に亘り、創造的で先進的な取り組みを行う全国の学校、先生方を支援してきました。

一方で、井深大の関心は幼児教育にも広がり、1969年に「財団法人 幼児開発協会」を設立しました。幼児期の豊かな感性と創造性の育成を目指し、2002年から幼稚園・保育所・認定こども園を対象にした「ソニー幼児教育支援プログラム」を開始しました。2011年に「公益財団法人 ソニー教育財団」となり、乳幼児期から中学生までの「科学する心を育てる」こと、「科学が好きな子どもを育てる」ことを柱にした教育助成を行っています。

教育助成の他、“自然に学ぶ”をテーマに探究する小・中学生対象の「科学の泉－子ども夢教室」、親子の絆を育む「“科学する心”を見つけよう フォトコンテスト」など、未来を生きる子どもたちへのさまざまな支援活動を行っています。

■ソニー教育財団のあゆみ

- 1959 「ソニー小学校理科教育振興資金」開始
- 1963 「ソニー理科教育振興資金受賞校連盟」結成
- 1969 「財団法人 幼児開発協会」設立
- 1972 「財団法人 ソニー教育振興財団」設立（井深大理事長）
- 2001 「ソニー小学校理科教育振興資金」を改称し「ソニー子ども科学教育プログラム」開始
「ソニー教育振興財団」と「幼児開発協会」を統合し、「財団法人 ソニー教育財団」となる
- 2002 「ソニー理科教育振興資金受賞校連盟」を改組し、「ソニー科学教育研究会（SSTA）」発足
「ソニー幼児教育支援プログラム」開始
- 2011 「公益財団法人 ソニー教育財団」に移行

以上